

1 明治4年6月23日 菊池長閑宛

六月廿三日

御尊父様

御座下

香一郎拜

二白川村の之一封差上候以上

(長閑注記)

(未書)
〔明治四辛未年〕

(長閑注記)
難堪之炎暑中益御機嫌能遊御旅行奉恭賀候隨而私無異勤学罷
在候間乍憚御安眠被成下度奉希望候御下向後も不相替暑氣敵く
一向雨ハ降不申実ニ難堪且疫病流行候かノ風説有之故心配致候
得_レ先伝染病も此頃は風説ス_ラも無之安心罷在候御道中嘸御苦
勞被遊候ハんと恐察罷在候暑ニ付て或処ハ早ニて水争論杯御座
候由御当地ハ如何ニ御座候や即今当校ハ休(抹遣)〔日〕みニて各下宿
仕残居候者百七拾余人之中五六十人余御座候て多分貧書生ニ御
座候同国之人も追々下宿仕佐藤と私引残居候総而学校ハ寂然ニ
御座候津和野藩知事辞職仕候徳山藩ハ本藩と合併仕候此度伝信
機世界一週候ニ付日本ニも長崎_ヲ横浜迄掛候積り其ニ就イタリ
一ニ於て各国之参会ニ塩田権大記出候趣或西洋人ノ説ニ日本ニ
てハ蒸氣船又ハ舟等之如き大なる者製造は追々学候得_レ未日用
之機械或ハシャボン等之如き未タ其製造を知らず大なる者ハ勿
論覚候ハ宜候得_レ小なる者をハ不覚日用之品皆之を外国ニ仰く
外国ハ総而税ハ高候得_レ自然物価も日本_ノ貴く其貴外国之物を
日用するハ実ニ不経済といふへしと笑候由魯志亞ハ終ニハ日本
を害といふ説西洋ニも唱候由就てハ鉄道杯ハ先箱館の方へ拵候
ハ当前ニ可有之杯談尤之事かと存候外別儀無之御起居御安全奉
希候謹言